



高野山を歩く

2009年1月29日“やっと”と言うか“とうとう”と言うか結願しました。（^◇^）
思い返せば4年前、以前からあこがれていた歩き遍路に何の準備もせず、リュックを下げて出発しました。家族は「だめだと思ったら連絡するように。4時間で迎えに行くから」と暖かいと言うか、多分1日でgive upすると見越し送り出してくれたのが、始まりでした。それから、4年の間に7回区切り打ちし結願できました。

この度は、植村旅館で同宿しこの、ご縁で以降貴重なアドバイスを遍路に出るたびに頂いたN氏に先達をお願いして高野山詣でに向かうことができました。

結願後、高野山へ満願のお礼まいりに行かれる方が、ほとんどでしょうが南海高野線極楽橋でケーブルに乗り換えて難なくお参りするよりも、やはり仕上げも歩きでしょう！

そこで今回で、現在残る高野山参詣道のメインルートの、今も弘法大師以来の往還道である「町石道」を歩く事にしました。

高野山町石道とは、約一千年前、弘法大師が高野山を開いた時、木の卒塔婆をたてて道標をつくった道だそうです。それは、九度山町の慈尊院から高野山の大門、壇上伽藍までの180町（約20km）にも及ぶ道程（健脚6時間30分と書かれていました）に、1町（約109m）ごとに180本建てられています。現在見られる石造五輪塔形の町石は鎌倉時代に建てられたもので、それぞれ町数を表す数字や施主名、願文が銘記されているものもあります。



<町石>



<144町石と1里石>

まずは、南海高野線 九度山下車 朝7時10分着。駅に置いてあるパンフレットは詳しい地図を手にいれます。健脚片道6時間35分と書いてあります。



<二つ鳥居>



<九度山 慈尊院門前>

九度山駅から、500m行くと真田庵がありますが今回は横目に約1km先の慈尊院へ詣でます。とても落ち着いた佇まいのお寺で、納経をいただき世界遺産の丹生官省符神社を通り過ぎると町石道に始まりです。急な柿畑にコンクリートの道をしばらく行くと展望台があり美しい紀ノ川良く見えます。登りのきつい柿畑の間のコンクリート道を登ると後は歩き

やすい地道になります。しかし、歩きやすいと思ってもやっぱり最後まで、お大師様はしんどい事を実感します。

大門につくと、八重の桜が満開でホッと一息。



<高野山 大門>

思い返せば、何となくあこがれだけで何の準備もせず一日でも“歩き遍路”の気分を味わいたくて始めた四国遍路でしたが、この高野道を歩きながら今まで一人歩いてきた四国の山々・・・この風景は松尾峠の道に似ている、ここは中山峠、ここは焼山寺への道と振り返られます。よく、本やインターネットのホームページの書き込みで、願がかなったなど書かれていますが私は四国を歩いても、願いも叶わないし生活も変わらないけれど、一歩一歩、歩ける自分を信じられるようになっていました。すべてのことに 感謝！！

次に、2回目の結願し高野山のお大師様の御足下に平伏す時、私は何を感じ思うのか・・・ワクワクです。これって四国病？



仲野 道代

